

第 2 回 産業応用部門論文委員会主査会議事録

1. 日時 平成 18 年 5 月 9 日(火) 13:00 ~ 15:00

2. 場所 電気学会第 1 会議室

3. 出席者(敬称略)

* 下線付きは出席者

深尾(編修長), 久保田(編修広報委員会副委員長, 明治大学), 大崎(研究調査運営委員会副委員長, 東京大学), 竹下(編修長補佐, 名古屋工業大学), 大石(次期編修長補佐候補, 長岡技術科学大学) 上田(D1 主査, 苫小牧高専), 佐藤(D1 副主査, 千葉大学, 記録), 泉井(D2 主査, 三菱電機), 岩路(D2 副主査, 日立製作所), 井出(D3 主査, 日立製作所), 古関(D3 副主査, 東京大学), 林(編修広報委員会委員長, 青山学院大学), 清水(IPEC 特集号ゲストエディタ, 首都大学東京), 松井(前 D1 主査, 東京工芸大学)

4. 提出資料

- 2-0 部門論文委員会主査会 議題
- 2-1 第 1 回産業応用部門論文委員会主査会議事録(案)
- 2-2 2006 年度部門論文委員会主査会名簿
- 2-3 部門論文委員会の構成
- 2-4 委員および幹事の役割分担(案) 2006.5.9 再修正案
- 2-5 特集論文の事務手続き(案)
- 2-6 「編修方針アドホック委員会」設置趣意書
- 2-7 電子査読システムの運用状況
- 2-8 電子査読システムに関する要望(D1)

5. 議事

- 5.1 資料 2-1 の前回議事録について, 議事 5.11 の「ICEM2006」を「ICEMS2006」に修正の上, 承認した。
- 5.2 資料 2-2 の主査会名簿を確認し, 大石次期編修長補佐候補より自己紹介と, あわせて論文委員会関係の業務に携わるアルバイトの内山さんの紹介があった。
- 5.3 竹下編修長補佐より, 前回の主査会での議論を踏まえて, 資料 2-3 のとおり, 部門論文委員会の構成を修正したとの説明があった。
- 5.4 深尾編修長より, 前回の主査会での議論を踏まえて, 資料 2-4 のとおり, 委員および幹事の業務分担を修正したとの説明があった。2006 年度は幹事 1、幹事 2、幹事 3 をそれぞれ D1 副主査, D2 副主査, D3 副主査に担当いただくが, 次年度以降については今後議論して決定する。また, 本件に関して, 幹事 2 の所掌業務について議論があり, 以下の点を確認した。さらに, 編修会議や英文論文誌関係の対応は幹事 3 の古関副主査の所掌業務であり, 必要な情報を伝達し対応を依頼すべきことを確認した。
 - ・ 論文委員会関係の記事をニューズレターへ掲載するために, 編修広報委員会の部門活動担当者との連絡調整を行う。
 - ・ 論文委員会関係の情報のホームページへの掲載に関して, 機動的な運用をするためにはホームページを論文委員会が自前で作成して管理した方がよい。
 - ・ 幹事 2 は, 編修広報委員会のメーリングリストに入って情報の共有に努め, ニューズレターの毎月の担当者を把握し, 紙面の空きスペースなどを有効利用した積極的な情報発信に努める。
- 5.5 竹下編修長補佐より, 資料 2-5 に基づいて, 特集論文の事務手続きの流れについて説明があった。

これに関して、以下の事項を確認した。

- ・ ゲストエディタの役割および権限について明確にする必要がある。深尾編修長，竹下編修長補佐，大石次期編修長補佐，古関幹事3，清水 IPEC 特集号ゲストエディタで議論して，5月中に考えをまとめることとした。
- ・ ゲストエディタは，特集号の進捗状況を随時把握する必要があるため，電子査読システムにおいて特集号論文全体の状況を閲覧できる権限を与える必要がある。
- ・ ゲストエディタは特集号に関しては主査と同等の権限を有し，特集号全体の進捗を管理して必要に応じて主査や幹事に処理促進を働きかけるが，論文の採否の決定そのものは主査や幹事が通常の論文と同様の手順で進める。
- ・ 資料 2-5 では，特集号に担当幹事を割り当てることになっているが，幹事は担当論文以外の状況を見る権限がなく特集号全体の進捗状況を把握できず実質的に機能し得ないため，担当幹事を割り当てることはしないこととした。これに伴い，資料 2-5 における担当幹事の業務として挙げられている業務については，ゲストエディタが担当することとした。

5.6 深尾編修長より，資料 2-6 に基づいて，電気学会全体の編修業務について議論する「編修方針アドホック委員会」が6ヶ月の期限で設置されるとの説明があり，必要に応じて，この主査会からも意見を出してもらいたいとの要請があった。

5.7 久保田編修広報委員会副委員長より，電気学会のホームページサーバに HTML を編集することなく定型のホームページが書ける機能が追加されるとの情報提供があった。意見交換の結果，論文委員会として有効活用できないかを考えることとした。

5.8 竹下編修長補佐より，資料 2-7 に基づいて電子査読システムの運用状況について説明があり，あわせて電子査読システムの問題点の指摘があった。また，上田 D 1 主査より，資料 2-8 に基づいて，D 1 グループからの電子査読システムに対する指摘事項の紹介があった。竹下編修長補佐および上田 D 1 主査より指摘された主な問題点，改善すべき点は以下のとおり。

- ・ 電気学会会誌編修課が電子査読システムの情報を見ることできないため，事務局の業務が円滑に遂行できない。
- ・ 通知のメールを見落とししたり，何らかの理由により処理が一度滞ると，担当者が処理を失念する危険性があるので，処理促進のメールが担当者宛に自動送信されるような仕組みが必要である。
- ・ 上記議事 5.5 に関連して，ゲストエディタの権限を反映したアカウントを設定する必要がある。
- ・ 論文の処理状況を表示する画面において，論文の表示順序に規則性がなく，非常に見にくい。
- ・ 査読者を検索する画面に査読委員以外の人の名前も表示される上に，表示できる人数の上限が10人に制限されているので，目的の査読者を検索できないことがあり，大変不便である。
- ・ 一人の査読委員で複数のアカウントを持っているケースがあるので，混乱を避ける意味でも不要なアカウントを消去すべきである。
- ・ 査読者が査読を割り振られたことを認識しているかどうかを確認する手段がほしい。

6. 次回開催予定

6月6日(火)の論文委員会に先立って，13:00～15:00 で開催する方向で，本日欠席のメンバーの都合等も勘案して決定する。

以上